

## 編集後記

石川県立看護大学の令和5年度年報が発刊の運びとなりました。今回で第24巻となります。年報には、本学教職員が日々取り組んだ教育、研究、地域貢献、学内運営の実績が記されています。ここでは、本文で伝えきれなかった大学内での様子を少し補足させていただきます。

令和5年度に日本で起きた重大な出来事として、5月8日新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したと1月1日に発生した令和6年能登半島地震が挙げられます。

新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことに伴い、本学では、これまで感染対策のために自粛していた地域活動が再開しました。地域活動に参加できるようになり、コロナ禍で大幅に減少したヒューマン・ヘルス・ケアの履修登録者数が回復、復調の兆しがみえました。学生サークル活動も元気を取り戻し、現在、掲示板には数々のサークルの案内が貼られています。夏休みには、学生サークル「子育て応援隊ひよっこ」が校内でこども食堂を開催し、校内を歩く多くの小学生の姿を見かけました。オープンキャンパスは4年ぶりに対面での開催となりました。国際交流では、米国の大学から看護教員を招聘したり、看護学部生の研修を受け入れたりしました。コロナ禍では静粛であった校内から、現在は話し声や笑い声が聞けるようになりました。様々な面で教職員・学生の活動が活発になり、校内にも活気が戻ってきたことを実感しています。

令和6年能登半島地震では、本学の建物への大きな被害はありませんでしたが、本学には、奥能登出身の学生が多く在籍しています。生活や精神面へのダメージは計り知れないものがあったと思います。多くの支援や自助努力の結果、2月を迎える頃には、全員揃って大学で講義を受講する様子を見るようになりました。教職員による被災者支援活動が開始され、学生も自主的にボランティアとして支援活動に参加する者が出てきました。様々な苦難を乗り越え、前を向いて取り組んでいく学生たちを頼もしく感じました。

本学独自の出来事では、教育において「教育DX化構想」のもとペーパーレス授業を導入しました。これにより、新入生の教科書は、全て電子教科書に、講義資料も全てPDF等の電子媒体となりました。これは、北陸地方の看護系大学では初めての取り組みです。新入生は、小中高等学校でICTを活用した学習を受けてきているとはいえ、ICTの操作に慣れている学生もいれば、そうでない学生もいます。入学当初から、学生委員会、DX推進委員会が中心となり、学生支援・教員支援活動を展開し、これまで大きな混乱もなく、ペーパーレス授業が順調に進んでいます。

編集後記を読んで、危機状況を乗り越え活気を取り戻した本学の様子を感じていただけたら幸いです。

最後になりましたが、本誌の編集にあたり各委員会、各付属施設の皆様から多大なるご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を一手に担った外主任主事および部会員の曾山委員の労を労りたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検評価委員会 年報編集部会長 桜井志保美